

(9) 四国



四国地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

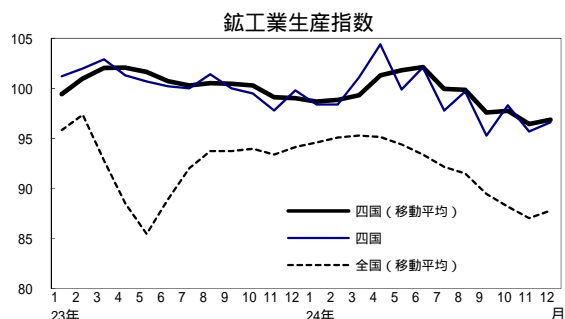
前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年11月)	今回(平成25年2月)	
景況判断	弱含み	下げ止まりつつある	
鉱工業生産	緩やかに減少	下げ止まりの兆し	
個人消費	弱含み	おおむね横ばい	
住宅建設	減少	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。

化学は、定期修理の影響のほか、カプロラクタムが市況の悪化を受けて低下したこと等から減少している。電気機械は、開閉制御装置でまとまった出荷があったことや、医用測定器の需要が堅調なこと等から増加している。食料品は、調味料で冬物商材の動きが例年より早めに出たこと等から増加している。パルプ・紙は、価格改定により印刷用紙の需要が上向いたこと等から増加している。一般機械は、前期にまとまった出荷のあった反動により化学機械・貯蔵槽や基礎工事用機械等で減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
化学	17.1	11.8	3.2	4.5	13.0
電気機械	15.4	7.3	4.4	3.2	5.5
食料品	13.6	3.4	2.6	3.6	12.0
パルプ・紙	11.8	2.4	3.0	2.6	4.8
一般機械	8.9	1.9	1.2	8.0	1.8
鉱工業	100.0	4.4	0.7	1.0	1.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10~12月期は速報値。

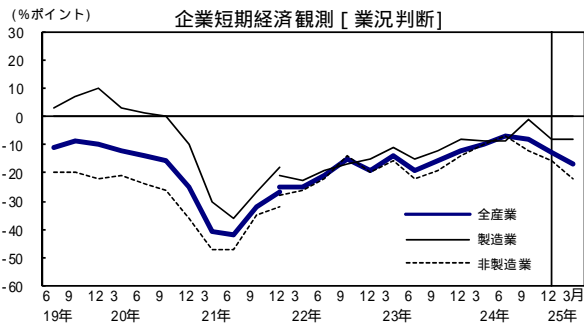
3. 電気機械には、情報通信機械、電子部品・デバイスを含む。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

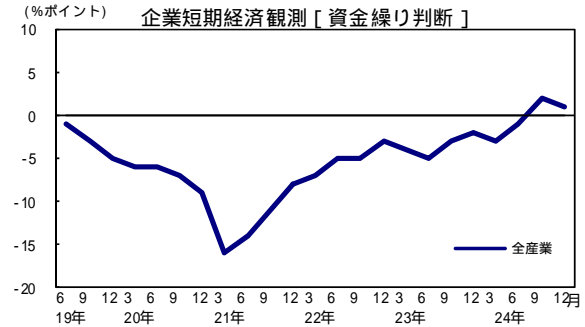
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

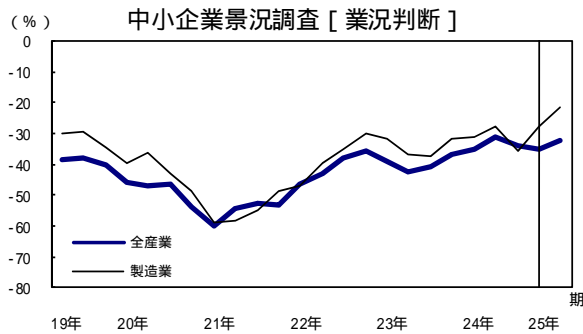
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年3月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

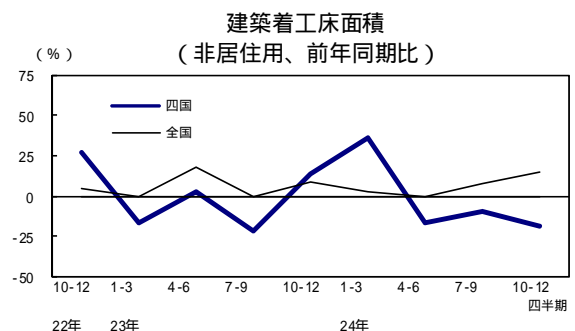
「政権交代による景気の上振れや消費税の駆け込み需要が少し見え始めた。また、東日本大震災の復興需要も始まっている(木材木製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	16.6	8.9(0.8)
製造業	16.6	14.6(1.9)
非製造業	16.6	0.7(3.9)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

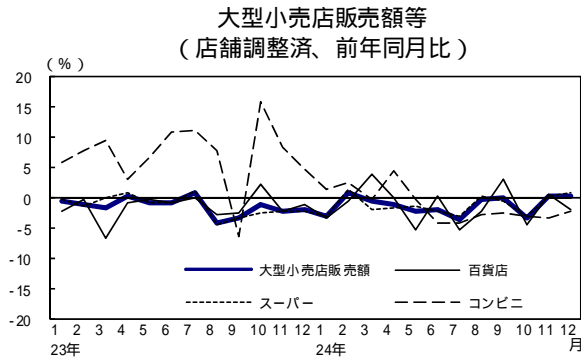
大型小売店販売額は、前年同期比で0.8%減、前期比で0.2%増となった。

百貨店は、10月は前年に比べ土日の数々が2日少なかったこと等から前年を下回った。11月は衣料品が前年に比べ月上旬から気温が低めに推移し、冬物衣料が好調であったこと等から前年を上回った。12月は衣料品の冬物需要が前月に前倒しとなった反動があったこと等から前年を下回った。

スーパーは、気温の影響により冬物商材が低調であったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「政権交代を受けて株価が上昇するなど明るい話題はあるが、航空機のトラブルによる欠航や円安で海外旅行が伸び悩み、個人旅行は増えていない(旅行代理店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	1.0	1.7	1.3	0.8
百貨店(*1)	0.2	1.6	2.0	2.0
スーパー(*1)	1.3	1.8	1.1	0.5
大型小売店(*2) (季節調整値)(*3)	0.9 (0.2)	0.3 (0.3)	0.3 (0.4)	0.1 (0.2)
乗用車(*4) (季節調整値)(*4)	51.9 (21.5)	77.2 (2.3)	24.5 (6.3)	2.8 (16.3)

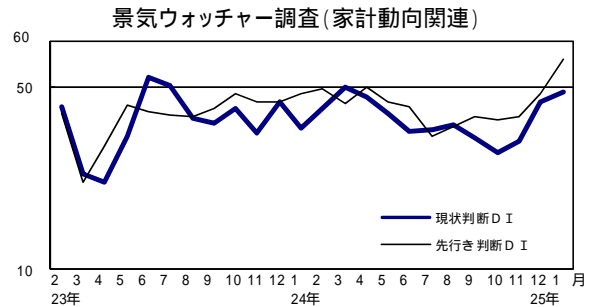
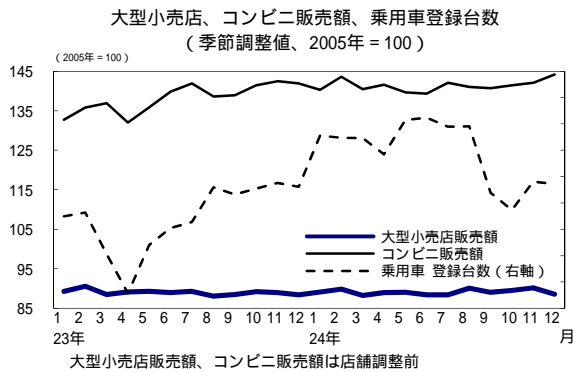
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

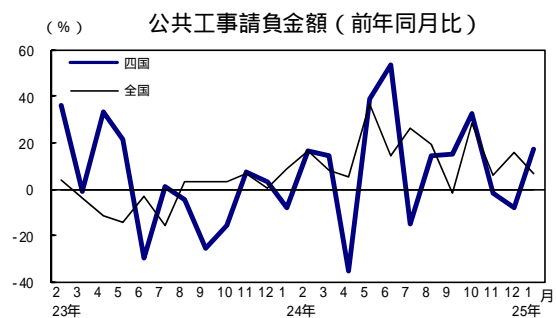
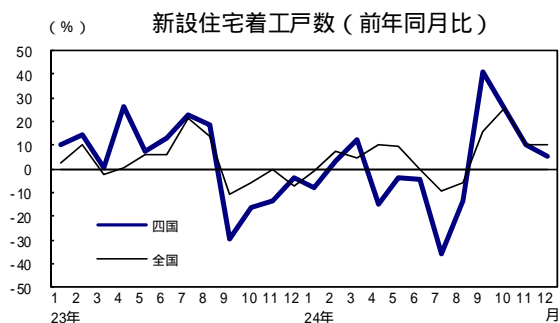
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

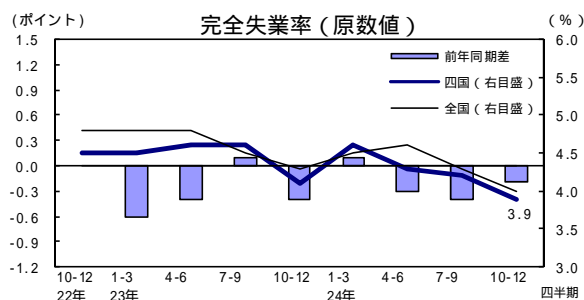
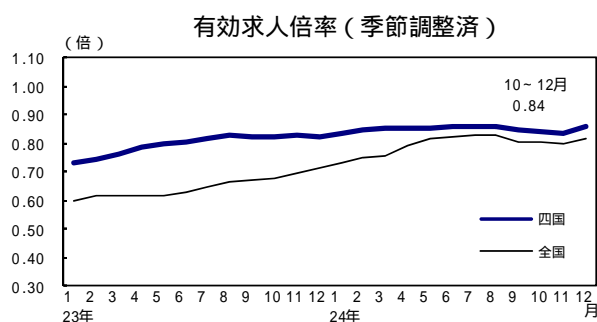


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

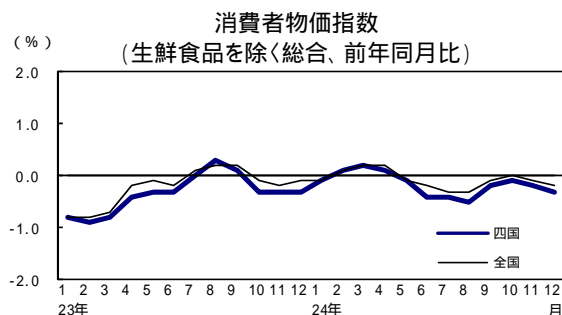
「派遣の需要としては長期雇用の人材の採用は特に変化がなく、欠員補充としてのニーズがある程度となっている。ただ、年度末に向けての季節的な採用者数は増加している（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	25年1月
倒産件数	72	63	69	69	16
(前年比)	0.0	14.5	13.8	19.0	23.8
負債総額	141	139	194	156	23
(前年比)	13.2	12.2	22.3	30.2	59.9



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・円安により輸出の採算が好転し、価格競争力も回復傾向にある（一般機械器具製造業）

<先行き>

・大型補正予算が決定し、事業主体である行政機関が執行に向けて準備を進めていることから、やや良くなると予想する（設計事務所）

